

# 塩谷郡市医師会だより

一般社団法人 塩谷郡市医師会  
広報委員会

〒329-1312

さくら市桜野1319番地3

さくら市氏家保健センター内

TEL 028(682)3518

FAX 028(682)5760

## Contents

- 1 第9回塩谷郡市医師会市民公開講座報告
- 2 平成25年度第2回役員会報告
- 3 第2回塩谷地区救急医療対策会議報告
- 4 シリーズ「塩谷医療史」14

### 第9回塩谷郡市医師会市民公開講座報告

平成25年10月27日(日)第9回塩谷郡市医師会市民公開講座が無事終了いたしました。

当日は、台風一過の好天に恵まれ、休日にもかかわらず約1,000人のお客様にご来場いただきました。皆様方の評価は、癒しの音楽会も、岡島美朗先生のご講演も大変良かったの声も多く安堵いたしております。



第1部 癒しの音楽会「草笛で懐かしい音楽を楽しむ」

第2部 「ストレス社会の傾向と対策」～生き抜くためのメンタルヘルス～

講師：自治医科大学 緩和医療講座

准教授 岡島美朗 先生



### 平成25年度第2回役員会報告

平成25年9月24日(火)午後7時から医師会事務室で開催された。

出席者：山田会長・尾形副会長・岡副会長・池田・後藤・軽部・佐藤・佐野・大草・半田・谷口・越井・高橋・植木・手塚・小島



### 第1号議案 塩谷地区救急医療対策会議の報告

6月17日第1回塩谷地区救急医療対策会議開催(会場：矢板消防署)が開催された。この会議は県内で救急搬送時間が最も長い塩谷地区の救急医療体制の充実強化を目的として、県が設置したもので、会議のメンバーは三次救急医療機関、二次救急医療機関、塩谷郡市医師会、塩谷広域行政組合消防本部、行政機関となっており、本医師会からは山田会長と池田担当理事が出席した。第1回会議では県から塩谷地区救急医療対策事業についての説明と現状の確認が行われた。

### 第2号議案 塩谷地区おとな・子ども夜間診療所の充実

現在行っているおとな・子ども夜間診療所を受診する患者は大部分小児であることから、小児診療を充実させるために、さらなる参加医師の増加と小児救急の講習会の開催を行うことが山田会長から示された。

塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL <a href="http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/">http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/</a> メール <a href="mailto:shioya@tochigi-med.or.jp">shioya@tochigi-med.or.jp</a>	岡 一雄 <a href="mailto:r2d2@msh.biglobe.ne.jp">r2d2@msh.biglobe.ne.jp</a> 尾形新一郎 <a href="mailto:ogata@o-ga-ta.or.jp">ogata@o-ga-ta.or.jp</a>	糸川 <a href="mailto:kumekawa.shioya@gmail.com">kumekawa.shioya@gmail.com</a> 高橋 <a href="mailto:takahashi@e-shioya.jp">takahashi@e-shioya.jp</a>

### 第3号議案 休日当番医制の診療科目配置について

休日当番が小児科の先生がたまたま同じ日にならないように調整するのはどうかという案が出たが、各市町で当番医の決め方が異なることなどの事情から矢板市と塩谷町だけでまず調整してもらうことになった。

### 第4号議案 第9回市民公開講座の中間報告

10月27日に矢板市で行われる市民公開講座「ストレス社会の傾向と対策」についての準備状況などについて佐藤理事から報告があった。

### 第5号議案 塩谷地区医療圏医療機関一覧について

塩谷地区医療機関一覧が改定され、市民公開講座で配布、また2市2町の全世帯に配布することが報告された。

### 第6号議案 平成26年度役員改選に向けた準備について

来年度から新規約に基づき、役員は理事10名、監事2名に削減される。理事・監事の各医師団割(予定)は2市2町に理事2名、黒須病院、塩谷病院に各1名理事、さくら、矢板に監事1名という案が示された。また、各医師団は平成26年2月10日までに理事、監事推薦者を決定し、事務局に提出。3月3日に役員会に提出。役員(理事・監事)選挙の公示は3月20日、立候補届は4月5日まで、4月12日の総会で選挙となり、当選の理事で新会長と副会長の選任を行うという手順が示された。会長選挙は従来のような会員の直接選挙ではなく、理事からの選出となる。

### 第7号議案 ABC検診について

山田会長から塩谷地区でも県北の大田原市のようにABC検診を始めるために、胃カメラを行っている医療機関のアンケート、行政との打ち合わせを行うことが表明された。

その他、新年会(1月24日)、会場は、宇都宮のホテル東日本、ホテル清水荘の2案があり、今後担当者が決めることになった。また、医師会ホームページがリニューアルされたので、「素顔の医師たち」などに積極的に投稿してほしい。

### 第2回塩谷地区救急医療対策会議報告

6月17日の第1回会議に引き続き、第2回会議が10月4日開催された。会議では塩谷地区の二次医療機関の医師不足が確認され、医療機関側から県に対し医師派遣の要望が出された。また、県が塩谷地区の住民向けの救急医療に関するポスター、リーフレットの作成について触れ、塩谷地区の全戸に配布さ

れることになった。また、次回の会議からは新聞、TVなどのメディアにオープンな形で開かれることになった。

### ABC検診委員会開催される

大田原市などの県北地域ではABC検診が既に導入されているが、塩谷地区でも2市2町の広域でABC検診の導入を検討するための委員会が平成25年10月23日(火)、氏家保健センターにおいて開催された。委員会には医師会側から胃内視鏡を行っている医療機関を代表して、山田会長(矢板市)、尾形副会長(塩谷町)、花塚先生、根本先生(さくら市)、関根先生(高根沢町)、行政側から2市2町の担当者が9名出席した。

会議では、行政と医療機関の意見の調整が行われ、実施に向けた行動計画や、行政及び医療機関の勉強会実施等について話し合われ、平成26年度の実施に向けた検討が行われた。



### 学術講演会 I

#### 「レストレスレッグス症候群に関する最新の医療」

日時：平成25年7月26日(金)

講師：獨協医科大学神経内科

准教授 宮本 雅之 先生

レストレスレッグス症候群(RLS)は別名むずむず脚症候群とも言われるが、脳の伝達物質であるドーパミンの機能低下が原因と考えられているが、いまだはっきりした原因はわかっていない。われわれ開業医の日常の診療でもごく稀に「脚がむずむずして





困るんです」という訴えをする方がいるが、なかなか診断や治療に困難を感じる場合が多い。その「むずむず」に宮本先生は簡単な診断の仕方と最近使用されるようになったドパミンアゴニスト製剤などについてわかりやすく説明してくれた。また、診断困難な場合は遠慮せず獨協医大に紹介してほしいとのことだった。

講演会の終了後、獨協医大名誉教授で現在蒲生君平没後二百年祭実行委員会会長を務める日野原正先生による蒲生君平に関する講話があった。

また、講演会終了後に親睦を兼ねた納涼会が行われた。



## 学術講演会Ⅱ

「保険診療に関する講習会」

日時：平成 25 年 9 月 3 日 (火)

講師：大和田内科 院長 大和田 信雄 先生



今回の講演会は通常の講演会と少し趣が異なり「保険診療」に関してであった。本医師会の代表として長く県医師会の保険委員を務める大和田先生ならではの保険診療に関する話が満載で、まさに先生の独壇場という雰囲気で大変為になる講演会であった。

## 学術講演会Ⅲ

「心源性脳塞栓症の予防と治療」

日時：平成 25 年 10 月 15 日 (火)

講師：筑波大学医学医療系臨床医学域

地域医療・先端医工連携講座教授 小松洋治 先生



今回の講演会は「脳卒中・急性心筋梗塞対策専門研修」として行われた。脳卒中の予防は動脈硬化の進行、血栓形成の阻止が重要であるが、特に心房細動のような心原生脳梗塞の予防と治療は抗血小板

薬、抗凝固薬を使用するため消化管出血、脳出血などの合併症に注意が必要である。小松先生は心原生脳塞栓症の予防と治療について最新の知見を含め、分かりやすく説明してくれた。

## 開院しました(10/2)

きめの里クリニック

院長 北條 行弘 先生

さくら市上阿久津上の台 1746-2

TEL028-612-8710



## 小児科診療医師研修会のお知らせ

日時：平成 25 年 12 月 17 日 (火) 19 時から

場所：さくら市氏家保健センター

演題：「小児救急の現状について～臨床から教育まで～」

講師：国際医療福祉大学塩谷病院

小児科医長 嶋岡 鋼 先生

塩谷地区おとな・こども夜間診療室や休日当番で小児を診療する機会がある先生方は、ぜひご参加下さい。

碓井 香橘 (片岡村大槻)

明治 30 年下野新聞は「吾人の身体生命は医士  
の手中に存する者多し故に其名医大家を選びて  
治療を請ふは患者に取りて最も必要の事なるに  
世人往々其選択を誤まり貴重の生命を害ふもの  
なきにあらず我が下野新聞は聊か茲に感ずる所  
あり県下各市郡毎に内科、外科、眼科、産科、歯  
科の五大家の投票を募り地方至る処の患者が良  
医選択の標的となさんとす (原文のまま)」と名  
医大家投票を行った。

塩谷郡の結果 (得票数) は以下の通りであった。

内科：碓井香橘 (32)、斎藤欽哉 (10)、

五十嵐良禎 (4) 藤田定吉 (3)

外科：五十嵐良禎 (13)、青木信哉 (12)、

青木初太郎 (5)、藤田定吉 (4)、

渡辺遠伯 (3)、鈴木火一 (3)

産科：渡辺遠伯 (4)、鈴木火一 (3)

眼科：阿久津均 (7)、藤田定吉 (5)

歯科：青木初太郎 (1)、塩野謙三郎 (1)

明治 30 年頃は現在のような国民皆保険もなく、  
気軽に医者にかかれる時代ではない。全体の得票  
数も少なく、この投票結果は庶民ではなくある程  
度の資産家が評価した名医と考えるべきだろう。  
各科で同じ名前が出ており、現在のように診療科  
がはっきりと分かれておらず、歯科に医師名があ  
るなど医師と歯科医師の区別もあいまいだった。

さて、内科で断トツの票を集めたのが片岡村大  
槻で開業していた碓井香橘であった。碓井は日本  
杏林要覧 (明治 42 年発行) によると文久 3 年福  
岡生まれの士族で、明治 23 年 6 月に医術開業試  
験に合格、片岡村大槻 70 番地で開業と記載され  
ている。また、帝国医籍宝鑑 (明治 31 年発行)  
には福岡県企救郡小倉新町 (現在の北九州市) の  
開業医として名簿に載っており、片岡で開業する  
までは福岡にいたと考えられる。では、福岡県  
の開業医であった碓井が何故、栃木県の片田舎に移  
住して開業したのであろうか？



碓井香橘  
栃木県名士肖像録  
(明治 38 年刊) より

それを解くカギは大槻の富川家 (故長島キヨ先生  
の実家) にあった。大槻の名主であった富川家が碓  
井香橘を招聘したのである。碓井を招聘した富川浩  
介は明治 19 年、東京専門学校 (現早稲田大学) で  
学んでおり、創設者の大隈重信との交流を示す手紙  
も残っている。碓井家はもともと柳川藩の藩医を務  
め、石高は三人扶持 10 石程度の家柄である。医師  
を招聘するために富川が旧知の仲であった大隈に  
相談し、佐賀藩出身の大隈が隣の柳川藩出身の碓井  
に声をかけたのではという推測も可能である。富川  
家、碓井家、地元に残る話では、地域全体で開業を  
歓迎し、木材や土地などを提供して診療所を建てた  
という。また、士族らしく馬に乗って往診し、地元  
でも評判の医師だったらしい。

当時の開業医は医科大学卒業あるいは医術開業  
試験に合格した開業医 (西洋医) と従来開業医 (漢  
方医)、山間部など過疎地の限定開業医に分けられ  
ていた。明治 30 年頃、栃木県には 592 名の医師が  
いたが、開業医 214 名、従来開業医 365 名、限定  
開業医 13 名であった。塩谷地区は、開業医 6 名、  
従来開業医 36 名、限定開業医 4 名であった。塩谷  
地区は西洋医学を学んだ医師の数が他地区に比べ  
少なかったことがわかる。富川浩介が、わざわざ遠  
方から西洋医を招いた事情はこの辺りにあるのか  
もしれない。ところで、今回お話を伺った碓井迪子  
氏だが、どうも見覚えがある方だなと思ったら私の  
中学時代の恩師 (国語) であった。全くの偶然とい  
え、何か運命のようなものを感じた再会であっ  
た。

(担当：岡 一雄)